

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書の訂正報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第4項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成22年2月8日

**【四半期会計期間】** 第6期第2四半期(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

**【会社名】** テラ株式会社

**【英訳名】** tella, Inc.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 矢崎 雄一郎

**【本店の所在の場所】** 東京都新宿区本塩町8番地1

(上記は登記上の本店所在地であり、実際の業務は下記の場所で行っております。)

**【電話番号】**

**【事務連絡者氏名】**

**【最寄りの連絡場所】** 東京都千代田区麹町四丁目7番2号

**【電話番号】** 03-6272-6477(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役管理本部長 山本 龍平

**【縦覧に供する場所】** 株式会社ジャスダック証券取引所

(東京都中央区日本橋茅場町一丁目5番8号)

1 【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

平成21年7月30日に提出いたしました第6期第2四半期(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)四半期報告書の記載事項の一部に誤りがありましたので、これを訂正するため四半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

2 【訂正事項】

第一部 企業情報

第5 経理の状況

1 四半期財務諸表

四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更

3 【訂正箇所】

訂正箇所は\_を付して表示しております。

第一部【企業情報】

第5【経理の状況】

1【四半期財務諸表】

【四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

(訂正前)

	当第2四半期累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年6月30日)
1. 会計処理基準に関する事項の変更	<p>(リース取引に関する会計基準の適用)</p> <p>当事業年度の第1四半期会計期間から平成19年3月30日改正の「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準委員会 企業会計基準第13号)及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 企業会計基準適用指針第16号)を早期に適用し、所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理から通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理に変更し、リース資産として計上しております。</p> <p>また、リース資産の減価償却の方法は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零として算定する方法によっております。</p> <p><u>なお、リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、期首に前事業年度末における未経過リース料残高又は未経過リース料期末残高相当額(利息相当額控除後)を取得価額として取得したものととしてリース資産に計上する方法によっております。</u></p> <p>この結果、従来の方法によった場合に比べて、貸借対照表については、有形固定資産が78,996千円、流動負債が19,516千円、固定負債が61,693千円増加し、損益計算書については、営業利益が1,483千円増加、経常利益が930千円減少し、税引前四半期純利益が2,213千円減少しております。</p> <p>キャッシュ・フロー計算書については、従来、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に計上されていたリース料のうち、リース債務の返済相当額の支払は「財務活動によるキャッシュ・フロー」の区分に計上する方法に変更しました。</p> <p>以上の変更により「営業活動によるキャッシュ・フロー」が9,348千円増加し、「財務活動によるキャッシュ・フロー」が9,348千円減少しております。</p>

(訂正後)

	当第2四半期累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年6月30日)
1. 会計処理基準に関する 事項の変更	<p>(リース取引に関する会計基準の適用)</p> <p>当事業年度の第1四半期会計期間から平成19年3月30日改正の「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準委員会 企業会計基準第13号)及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 企業会計基準適用指針第16号)を早期に適用し、所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理から通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理に変更し、リース資産として計上しております。</p> <p>また、リース資産の減価償却の方法は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零として算定する方法によっております。</p> <p>(____部分削除)</p> <p>この結果、従来の方法によった場合に比べて、貸借対照表については、有形固定資産が78,996千円、流動負債が19,516千円、固定負債が61,693千円増加し、損益計算書については、営業利益が1,483千円増加、経常利益が930千円減少し、税引前四半期純利益が2,213千円減少しております。</p> <p>キャッシュ・フロー計算書については、従来、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に計上されていたリース料のうち、リース債務の返済相当額の支払は「財務活動によるキャッシュ・フロー」の区分に計上する方法に変更しました。</p> <p>以上の変更により「営業活動によるキャッシュ・フロー」が9,348千円増加し、「財務活動によるキャッシュ・フロー」が9,348千円減少しております。</p>

以上